

令和5年度 甲府南高等学校同窓会

日 時；令和5年11月3日(金・祝) 13:00～
会 場；アピオ甲府
受 付；12:00～

式次第



総 会

13:00～14:00

会場；タワー館 6F
「サボイ」



懇親会

14:30～17:00

会場；タワー館 4F
「光華」

1. 開会宣言
 2. 開会のことば
 3. 実行委員会代表あいさつ
 4. 同窓会会長あいさつ
 5. 来賓紹介
 6. 来賓祝辞
 7. 物故恩師・会員への黙祷
 8. 議長団選出
 9. 議事
 - 1) 令和4年度事業報告
 - 2) 令和4年度決算報告
会計監査報告
 - 3) 令和5年度事業計画案
 - 4) 令和5年度予算案
 - 5) 役員改選
 - 6) その他
 10. 議長団解任
 11. 南高栄誉賞授与
 12. 校歌演奏
 13. 閉会のことば
 14. 閉会宣言
1. 開会宣言・開会のことば
 2. 実行委員長あいさつ
 3. 同窓会会長あいさつ
 4. 来賓紹介
 5. 来賓祝辞
 6. 南高栄誉賞受賞者あいさつ
 7. 古希会員あいさつ
 8. 乾杯
 9. 首都圏支部東京同窓会会長あいさつ
 10. アトラクション
甲府南高校吹奏楽部・管弦楽部
 11. お楽しみ抽選会
 12. 新旧実行委員会引継式
 13. 校歌斉唱
 14. 閉会のことば
 15. 閉会宣言



総会開催に寄せて

甲府南高等学校
同窓会会長 望月立弥

本年5月に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類に移行され、さまざまな行事が以前に戻ってまいりました。

本会も、感染拡大防止の観点から、従来のような総会・懇親会を控えていましたが、今年度は久しぶりにアピオ甲府を会場に総会・懇親会の開催となりました。これもひとえに実行委員会をはじめとする関係各位のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

この間、昭和38年に設立されました母校甲府南高等学校は、昨年創立60周年記念行事を行い、人生で言うと還暦を超えました。卒業生は2万名を超え、関係各位のご尽力により、山梨県を代表する高校となり、全国にその名を知られるようになりました。

「スーパーサイエンスハイスクール」にも5回連続指定され、全国でも有数の理系人材の排出校となり、部活動でも体育・文化両面で全国や関東大会に出場するなど活躍しています。

同窓会の目的は、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することにあります。現在も多様な事業を展開し、学校や在学生に対して全面的な協力をしています。今後一層、努力して参る所存です。

懇親会の開催にあたり、位置づけは変更されたとは言え、新型コロナウイルス感染症拡大の危険性は続いています。感染対策に配慮をしていますが、ご参加の皆様にも気をつけていただくとともに、重症化リスクの高い方などへの配慮も併せてお願いします。

今回の総会・懇親会開催にあたり、37、38、17、18期の実行委員会の皆様に感謝申し上げますとともに、校長先生をはじめとする学校関係者の皆様、各期常任理事他関係者等のご尽力、ご協力いただきました多くの皆様方に衷心より御礼申し上げます。

結びに、校歌の一節の「輝くよ、輝くよ、我らが未来」のように、同窓生と甲府南高等学校の輝く未来を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



御挨拶

山梨県立甲府南高等学校

校長 篠原 健

令和5年度甲府南高等学校同窓会総会が、テーマ『深化』の下に盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、同窓生の皆様には平素から本校の教育活動に多大な御支援・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校の卒業生は、現3年生が卒業する来春をもって21,000名を越えます。その卒業生は県内や国内のみならず世界の様々な分野において活躍されています。在校生は、創立以来61年の年月の中で受け継がれてきた校訓『開拓者精神～Frontier Spirit～』を胸に、高い志を抱きながら意欲と活気にあふれた高校生活を送り、互いに切磋琢磨しています。

さて、本年は5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類になったこともあり、緑陽祭をはじめとする多くの行事を行動制限することなく実施してきました。生徒にとってはコロナ禍の3年間は様々な行事が中止または縮小した形で行われてきたこともあり、貴重な経験ができたものと思います。特に緑陽祭はコロナ禍前の緑陽祭を知らない生徒達が、短い準備期間の中で試行錯誤しながらやりきったことはとても素晴らしいことであり、生徒達の持っている潜在的な力の高さをあらためて感じました。課題を整理し、課題解決の方策や優先順位を考え、個々の長所を活かし仲間と協働しながら課題の解決にあたる姿は、頼もしいものでした。

部活動においては、5月に行われた県高校総体では総合得点で男子7位、女子5位と、公立普通科高校として抜群の成績を収めました。全国大会への出場は、体育局では、剣道部が女子団体と女子個人1名、男子個人1名、ソフトテニス部が男子団体と個人1ペア、陸上競技部が三段跳で男子2名、女子1名が北海道で行われた高校総体に出場しました。文化局では、生命科学部、物質化学部、管弦楽部、囲碁(クイズ研究会)が鹿児島県で行われた総合文化祭に、放送部がNHK全国高等学校放送コンテストに、文芸部競技かるた支部が全国高等学校小倉百人一首かるた選手権に出場しました。

また、平成16年度から文部科学省の指定を受けているSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)も5期連続20年目となります。本校のSSHは、科学的現象や社会の諸問題を、創造的かつ科学的アプローチで解決できる科学技術人材の育成であり、そのために課題研究を主眼とした学校独自のカリキュラムを開発し、本校での3年間の学びが大学や社会で活用できる探究力や研究力につながるようなプログラムの充実に努めてきました。第5期では、これまでに開発したプログラムの深化と他校への普及を目指しており、SSH事業の充実発展に全校体制で取り組んでおります。

一方、インターアクト活動や「ボランティア1000回運動」等も盛んで、他者を思いやり社会の絆を深める「しなやかな心」が学校全体で育まれています。今後も未知な分野や困難な課題に果敢に挑む開拓者の精神を大切に、変化の激しい時代をたくましくしなやかに生きていくことのできる人材の育成、社会に貢献できる人材の育成に、教職員一丸となって努めて参ります。

結びに、令和5年度同窓会実行委員会の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、同窓会のますますの発展と会員の皆様の御活躍を祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。



同窓会開催のご挨拶

令和5年度同窓会総会

実行委員長 鷹野 義朗

(37期卒)

令和5年度甲府南高等学校同窓会総会・懇親会が同窓会・学校関係各位、恩師の先生方を迎え盛大に開催できますこと、心よりお礼申し上げます。

総会・懇親会の開催にあたり、望月同窓会長はじめ、多くの同窓会理事の皆様、ご協賛を賜った各企業、団体・個人の方々、当番幹事の皆様、そして古希を迎えられた4期・5期の皆様、本当に大勢の偉大な先輩方に多大なるお力添えや励ましのお言葉をいただきましたこと、厚く感謝いたします。

本年度の同窓会テーマは、【深化(しんか)】ですが、様々な物事に対して深めること、深まることを意味しています。

私たちは、コロナ禍において困難や苦悩が多くあったかと思われれます。しかし、この間、在校生は諸先輩方の伝統や想いを途切らせず、甲府南高等学校の発展に寄与してくれました。未来にわたって甲府南高等学校に関わった方々のつながりが「深化」することも願ってテーマとして掲げさせていただきました。

今年度は、コロナ禍の影響に伴いやむなく中止とした総会を4年ぶりに開催することとなり、準備は右往左往しながら行うこととなりました。しかし、昨年の当番幹事だけでなく、懇親会を開催した当番幹事の諸先輩方にも相談でき、ご多忙でありながら熱心に教えていただくことができました。準備を通じて先輩方の母校に対する愛情を感じることができる機会となりました。そして、望月同窓会会長をはじめ同窓会理事の皆様、先生方、共に尽力していただいた当番幹事の委員の皆様、大変な時期に関わらず気持ちよくご協賛・ご寄付いただきました多くの関係者の、大きな力添えに深く感謝申し上げます。

甲府南高等学校は、今年創立61周年を迎え、新たにステップを踏み未来へ突き進んでいくことかと思われれます。今後は、時代に合った新しいものへと変化を遂げる必要がありますが、甲府南高等学校同窓会が、在校生と卒業生が母校との関係を「深化」させる一役を担うことを願っています。

結びに、母校の益々の発展と同窓生の皆様、ご協力いただいた企業、団体・個人の皆様方、校長先生はじめ学校関係の皆様、在校生達、関係各位の更なるご活躍とご多幸を祈念申し上げ、実行委員長の挨拶とさせていただきます。



同窓会開催に寄せて

令和5年度同窓会総会

実行委員長 **渡 辺 真 吾**

(38期卒)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、学校生活も徐々に戻りつつあるのではないのでしょうか。令和5年度甲府南高等学校同窓会総会が開催できますこと、心よりお礼申し上げます。

そして、去年は苦渋の決断のうえ中止となった懇親会を再び盛大に開催できますこと、関係各位の皆様のご尽力に賜るもので厚く感謝申し上げます。

私たち当番幹事が同窓会総会・懇親会を開催できるのは、甲府南高等学校同窓会の灯を絶やさぬよう続けてきた、同窓会長はじめ、多くの同窓会理事の皆様、ご協賛を賜った各企業、団体・個人の方々、各当番幹事の皆様、そして偉大な先輩方のお力添えによるものでした。私たちもその役割を果たせ、次につなげることができることは今後の人生の糧になると思います。

さて、私たち38期生は、現在の校舎で勉強、部活動、その他活動に精一杯取り組み恩師から熱心なご指導をいただき、充実した高校生活を送ることができました。授業の合間での友人との何気ない会話、緑陽祭や合唱コンクール、体育祭など多くの学校行事、今考えるとかけがえのない青春時代を過ごしたことが、当番幹事となり総会・懇親会の準備期間に蘇ってきました。甲府南高等学校で学ぶことができたのは先輩方と同様「誇り」となっています。今後、今年度のテーマである「深化」のように、再開する仲間ともに物事を深く追究し取り組み、後輩の見本になるよう頑張っていきます。

また、甲府南高等学校同窓会が、在校生と卒業生が母校との関係を「深化」させる一役を担うことを願っています。

結びに、母校の益々の発展と、在校生のかけがえのない学校生活の実現、並びに甲府南校高等学校に携わるすべての方々のさらなるご活躍とご多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



総会開催に寄せて

甲府南高等学校
第60代生徒会長 保坂 一輝

この度、令和5年度甲府南高等学校同窓会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

今年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に引き下がり、これまでの生活に光明が差し込みました。増加する感染者や変異株の発見をニュースで見ると、一時はどうなってしまうのだろうと不安に苛まれましたが、長かったコロナとの戦いも終わりの兆しが見えようとしています。

私達が甲府南高等学校に入学してからも、リモートでの授業や分散登校などの感染症対策により、1学年時はスキー教室の中止など、様々な活動に制限が加わりました。現在、マスクの着用も任意となり、今年になってから同級生の顔を知った人も多くいました。

コロナ流行前の生活に戻りつつある中、今年も県下最大級の学園祭である「緑陽祭」を開催することができました。今年は、過去3年間新型コロナウイルスによって制限されていた一般公開を行うことができました。各クラス創意工夫を凝らして一つの作品を仕上げる造形コンクールや担任似顔絵コンテスト。復活したスタンドグラスや学年間とのつながりを重視した南高ソングなど昨年度よりもさらに発展させることができました。コロナ禍での緑陽祭では、生徒は主に客として楽しんでいましたが、今回では来場客をもてなす側となりました。期間中、約2000人も来場客に楽しんでいただけました。緑陽祭実行委員長の藤本龍星君を中心に学校一丸となって取り組んだ緑陽祭はこれから先も忘れることのない生涯の財産になることでしょう。ご尽力くださった先生方にも感謝しています。

さて、本校は今年で創立60周年を迎えました。60年前の1963年には伊藤博文が肖像となった新千円札の発行や、日本初の連続アニメである「鉄腕アトム」の放送の開始、東京オリンピックの開催を受けた好景気など日本国内では高度経済成長期に入り大きな発展を遂げた年でありました。本校は昭和・平成・令和と三代に渡り、幾多の時代の変遷を乗り越え歴史を刻んできました。私たちの甲府南高校が今日あるのも数多くの方々のご苦勞、ご支援、ご尽力があつてのことと改めて深く感謝申し上げます。創立以来、数多くの先輩方が卒業され各分野でご活躍されております。私たちはそのご活躍を心の支え年、先輩方や地域の方々によって培われてきた伝統と校風をさらに発展させていかなければならないと強く感じております。時代の流れに沿い、本校でもICTが導入され授業の在り方も大きく変わりました。最近では人工知能の成長が著しく、様々な場面で多用されています。

20年後には、現在の職業の約49パーセントの職業がなくなるとされています。私たち一人一人が自分の役割を探すことになります。その中でたくさんの人々の思いを背負い、新しい時代を切り開いていく、まさに開拓者精神の心でこれからの時代を生きていきます。

校章に描かれている中心に集中した三稜の線は、英気は南高より発し、真理は南高に集まる動きを表したものだと思っています。60年間脈々と引き継がれてきた伝統を礎に、私たちは今後も英気を発し、校歌の一節にある「真善美高きを求め」、新たな歴史を刻むべく日々努めてまいります。